

こんなときどうしたら…?



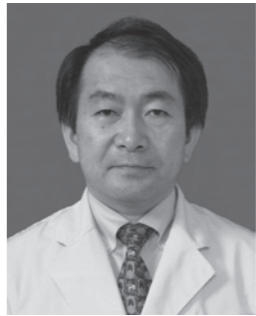
こんなとき
どうしたら…?



Dr. からのアドバイス



岐阜市民病院
皮膚科部長
米田 和史氏
(よねだ かずふみ)



昭和53年岐阜大学医学部卒。
岐阜大学病院勤務、ウィーン大学第一皮膚科留学、大垣市民病院勤務などを経て平成5年から岐阜市民病院勤務。

皮膚の病気

最近皮膚に黒っぽいできものがあることに気付きました。悪いものかどうか心配です。

Q 皮膚のできものにはどんなものがありますか？

A 良性の皮膚腫瘍では母斑(ほくろ)、脂肪腫、粉瘤(ふくる状の腫瘍)、脂漏性角化症(老人性のいぼ)などいろいろあります。若い人ではほくろが一番多くみられます。お年よりでは脂漏性角化症が一番多く、この腫瘍が急にたくさんできてかゆみを伴っている場合には内臓に癌がある場合もあり要注意です。前癌状態の腫瘍としては日光角化症があります。若い頃によく日にあつた人の顔や頭にざらざらした褐色調の紅斑ができます。放置すると有棘細胞癌になります。皮膚の癌の代表は基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫の3つです。この内、悪性黒色腫はほくろの癌として知られている腫瘍で、癌の中でも最も予後の悪い腫瘍のひとつです。日本人は足の裏にできることが多く、足の裏に黒いほくろ様のものができたら注意が必要です。足のうらにできる色素斑のほとんどは良性のほくろですので、心配し過ぎる必要はありませんが、念のため皮膚科の専門医診察を受けたほうが安心です。

Q 皮膚の腫瘍には良性と悪性があるようですがその違いは簡単に分かるものですか？

A 根本的な違いは良性腫瘍では人の命を脅かすことはありませんが、悪性腫瘍は放置すると命にかかります。一般的な特徴としては良性のものは大きくなるスピードが遅く、大きくなっても転移しません。一方悪性のもは増殖スピードが比較的早く、周囲の組織を破壊し、しばしば転移します。表面がじゅくじゅくしたり、出血することもある悪性腫瘍では時々みられます。例えば10年以上前からできものがあ

り、大きさがほとんど変わっていないような場合は良性の可能性が高いといえます。一方2カ月前からできてきて、急に大きくなり、出血するようになったような場合は悪性の可能性が高いといえます。皮膚の悪性腫瘍の代表の悪性黒色腫についても少し詳しくその特徴を述べると、かたちが非対称性で、辺縁が不正で、しみ出しがあったり、色むらや色の変化があり、大きさが7mm以上のときはその可能性が高いとされています。典型的なものであれば皮膚科の

Q どの病院に行けばいいですか？

A まずは皮膚科専門の『かかりつけ医』に相談すると

良いでしょう。典型的なものであれば、見ただけで良性か悪性かを診断していただけだと思います。しかし典型的でない場合や、悪性が疑われるような場合は紹介状を書いていた

Q 治療法は？

A 腫瘍の種類により異なります。良性のものは経過観察でもかまいませんが、手術したり、液体窒素で凍結治療をすることもあります。悪性腫瘍の場合は手術が原則で、場合によって放射線治療や、抗癌剤の治療をします。いずれにせよ悪性腫瘍は早期に治療行なうことが予後にかかわってくるため、怪しいできものを発見した場合は早急に皮膚科医を受信することをおすすめします。

Q 皮膚癌の予防法は何かありますか？

A 皮膚癌の発生を完全に予防する方法はありません。し

かし皮膚癌のなかでも日光角化症や有棘細胞癌などは紫外線が発癌に関与しているといわれていますので、紫外線をさけることは予防につながります。わたしは趣味の釣りには必ずサンスクリーンを使っています。みなさんも日光に長くあたる時にはサンスクリーン使用されとよいとおもいます。